

くらき永田保育園便り



早いもので令和4年度も残すところ2ヶ月となりました。コロナの感染も還元な収束は迎えていませんが18日の「小さな表現者展」では、対面で一年間の子どもの育ちについて皆さんとお話できること楽しみにしています。

子どもの表現活動を感じてみよう！

子どもの表現活動という言葉を知ると、大人はつい「観察画」「想像画」「生活画」といった言葉で子どもの絵や表現活動を分類しがちです。でも、子どもたちは絵を描くために観察したり、想像したり、生活したりしているわけではありません。また、保育士が様々な表現技法を子どもたちに教え込んでいくというのも逆に子ども自身の「描きたい」といった思いを阻害してしまうこともあります。そして何よりも表現活動は他人から「上手・下手」といった評価をされるべきものではないというのが一番大切だと思っています。

小さな表現者展を前に保護者の皆さんと共有したいのは、私たち大人はそこに描かれている色や形の出来上がりよりも、子どもの姿から自分の持っているものを活用して描き出そうとしている子どもの世界にもっと耳を傾け、一緒にその世界を感じ共有したいと考えています。

たとえば、子どもが言葉で雄弁に語ってくれなくても、また、その表現活動の現場にいなくても子どもたちの絵や造形物に耳を傾ければ、作品が饒舌に語りだし、子どもたちの声を聴きだすことができると思うのです。ぜひ、子どもたちの感じた世界を想像しながら表現物を観ていただき、保育士と子どもの育ちを語り合いたいと思います。

新世界「透明標本」展が保育園で！！

日本だけにとどまらず世界の博物館でも注目され人気の高い「新世界透明標本」が3月2日に保育園にやってきます。小さな生き物の肉質を残したまま筋肉を透明化することで生きたままの形で骨格を魅せる作品は、子どもだけでなく大人も「ふしぎだな～」の感情が湧き上がること間違いありません。当日は作者の冨田伊織さんも来園し映像をつかったお話も楽しみです。

各クラスの小さな表出をお伝えします！

にこにこ



友だちや保育士と一緒に水や土、ウッドデッキに生えている草等の身近な自然物や様々素材室内の玩具に出会いたくさん遊んできたにこにこ組。

タライにたくさん入った松ぼっくりでじっくり遊んでみた時のことです。ある子はタライの中にたくさん入った松ぼっくりを見て、その中の一つを片手で取って、「なんだろう」という表情で観察していました。隣で一緒に遊んでいた友だちの様子も覗き込んでいます。どんな風に遊んでいるのか気になったのか、今度は両手の中に包み込むように持ってから、たくさんある松ぼっくりをじっと見つめて観察を続けています。松ぼっくりを持っている指先には力が入っていました。指先で感触を確かめていたのでしょうか。



子どもたちの「不思議」との出会いは“遊び”を通してどんどん世界が広がっているのですね。表現者展でお伝えできればと思います。

よちよち



乳児の森でプランターの中の土をレンゲで掬う子がいました。初めはプランターの中のサラサラとした土で遊んでいるのだと思いましたが、「カブさんのお布団」とつぶやく声が聞こえてきました。見ている隣にあるプランターの植物に掛けています。霜柱が立つ中で育つ植物が、寒そうに見えて土のお布団を掛けてあげていたようです。



「お布団で暖かそうだね」と声を掛けると「暖かい？」と植物に尋ねる姿もありました。その後はプランター以外の寒そうな植物を見つけては、サラサラとした土のお布団を掛けて回っていました。植物の気持ちを想像しながら土を掛けていた様子をプランターの土で遊んでいると捉えていましたが、その子なりの世界や見方の中で土を掬っていたのだと感じました。

これからも子どもたちの発見を近くで見守り、思いに寄り添っていきたく思います。





すくすく

すくすく組の子どもたちは、身近な道具を使ってイメージを形にする事を楽しむようになってきました。拾った枝で園庭の地面に丸や線を書いて「ママだよ」と言ったり、室内遊びでは布で容器をくるむと「お弁当だよ」と教えてくれるなどしています。同じ布でも丸めてアイスクリームにするなど、ひとりひとり思い描く事には違いもあり、それぞれが工夫しながら形に変えて楽しんでいます。『紐絵』という玩具(ペン型の容器に自分で紐を通しプラスチックの台紙に模様をつける)では、四角く囲って「おうちつくった」「まどもあるよ」など教えてくれるなどしています。自分の体と道具を使うと何かが出来きることに気がついてイメージが膨らみ、形に変えることを楽しむようになっていくのかもしれませんが。

小さな表現者展では、子どもたちが様々な道具と出会い、親しむ中でひとりひとりが感じた思いや表出を伝えらえるといいなと思います。



異年齢

今まで以上に『子どもによる子どものための行事』に力を入れてきた今年度、ブリコルームを開設したこともあり、小さな表現者展の在り方も職員間で何度も話し合い、どうしたら子どもの**表出**を見せる形にできるだろうかと考えてきました。**心が動いた瞬間**に「先生、見て(来て)！」と**共有**したい子・「(朝の集まりで)紹介したい！」と**発表**したがる子・ただただ**集中して夢中**になる子と様々な姿がありますが、ここでそれぞれの姿に大人がどう関わるかが重要だと思うのです。共有したがる子には共感を、話したがる子には発表の場を、集中して夢中になっている子には邪魔しない環境を提供できるよう心掛けています。こうした大人の対応がきっと次への意欲に繋がるからです。しかし、もし、子どもの表出に対して「ふ～ん」「もっとこうすればよかったんじゃない？」など大人目線で評価されてしまったらどうでしょうか？小さな表現者展では作品以上に創作中の子どもの姿を想像して楽しんでみてはいかがでしょうか？子どもたちはきっと喜んで説明してくれると思います。



給食室

毎日寒い日が続いていますが、元気いっぱいの子どもたちの声と笑顔に、パワーをもらって頑張っている給食室です。

さて、今月は、子どもたちに人気のおやつレシピをご紹介します。
材料も少なく、作り方も簡単！だけどおいしい！おうちでも作りやすい、おすすめおやつです。

【お麩のクッキー】

材料（作りやすい分量）

- ・ 麩（小さめ）20g
- ・ バター 大さじ2
- ・ グラニュー糖 大さじ2
- ・ シナモン お好みで

作り方

- ① バターを耐熱容器に入れ、電子レンジにかけて溶かしたところに麩を入れて、バターを全体に絡める。
- ② バターがしっかり絡まったら、グラニュー糖とシナモンをまぶし、シートを敷いた天板に並べ、180℃のオーブンで10分程度焼く。
- ③ こんがりとした色が付いたらできあがり！

★きな粉を入れてみたり、ブラックペッパーや粉チーズ、ガーリックパウダーなどで味付けをしたり、アレンジしやすいので、ぜひ色々お試しください。

サクサクとして軽いので、ラスクに近い食感でとても食べやすく、子どもたちも良く食べてくれるおやつです！



寒さに負けない子どもたち！



2023年になり、早1か月が過ぎました。まだまだ寒さは続きますが、子どもたちは園庭やテラスでは身体を存分に動かし、大人が寒さに震えているときでも汗をかいている姿をよく目にします。初めはジャンパーを着ていた子どもたちも「暑い！」と言って自ら脱ぎだしています。体温調節を自分でできるようになってきているのでしょうか。自分では分からない子もいます。NHK「すくすく子育て」などでも言われていますが、服装も大人より1枚少なくとも良いとされていますが乳児さんはまだ難しいと思いますので、保育園では一人ひとりのお子様の様子を見て衣服の調節を心掛けていきたいと思っています。



係より



今月は事務所からの日常についてお知らせします。
事務所の火、水曜日の夕方はとてもにぎやかです。それは絵本の貸し出しがあるからです。

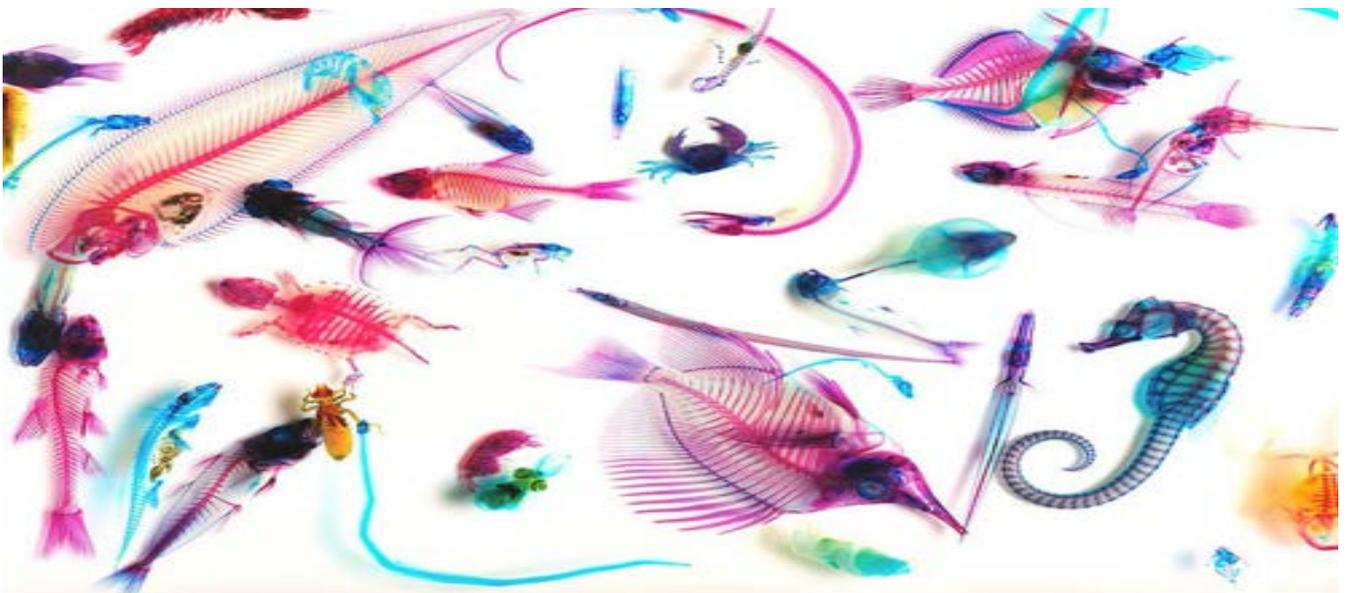
1～2歳児さんは、大きな絵本を抱えながらニコニコの笑顔で持ってきてくれます。「この絵本貸してほしいのね？」と声をかける「うん」と大きくなずいてくれます。

3歳以上の子どもたちは、絵本の貸し出しの際に使うバーコードリーダーに興味津々。「じぶんでやるの」と言ってリーダーを絵本にかざすのですが中々うまくいきません。「先生がやってあげるね」と言ってもリーダーを返してくれません。何回もチャレンジしてピピッと読み取りを完了させた時の自信満々のドヤ顔がたまらなく好きです。

こどもが大人の真似をするのは、学んで成長するために無くてはならない行為です。こどもの成長の途中段階として保護者のみなさまも一緒に温かく見守っていきましょう。(By カ三)

今月の行事

- | | |
|--------|-----------------|
| 3日(金) | 節分 |
| 4日(土) | 布団乾燥 |
| 11日(土) | 建国記念日 |
| 18日(土) | 小さな表現者展(土曜保育なし) |
| 23日(木) | 天皇の誕生日 |



透明標本